

# 採血と検体のとりあつかい

(室月 淳 2013 年 8 月

21 日)

## 検査用全血の採血

1. 検査に必要な血液は 20mL である．検査会社指定の 10mL の真空採血管 2 本を使用する( 図 1 )．  
コンタミをふせぐためにキャップは絶対にあけない．
2. 注射針は原則として 21 ゲージを使用する．これより細い針では血中の細胞がこわれる可能性があり，cell-free DNA の量に影響するかもしれない
3. 血液の母体への逆流をふせぐために採血は翼状針を使用する．真空採血管のなかの薬剤は開示されていないが，生体に影響する可能性が指摘されている
4. 採血後，すみやかに転倒攪拌 ( 10 回以上 ) する



図 1 ．専用の真空採血管．10mL サイズを 2 本使用する

## 検体の移送と結果の説明

1. 検査依頼書 ( 図 2 ) は英語 ( アルファベット ) 記入であり，記載まちがいがないように注意する

2. 採血管にはラベリングをしっかりおこない，とりちがいのないように気をつける
3. 採血後，検体集荷までのあいだは冷蔵にて保管する．数時間であれば室温でも可．冷凍してはいけない．
4. 検体は当日に東京に送られ，翌日には航空便にてアメリカの検査ラボに送られる．ラボは 365 日 24 時間対応であるが，日曜日はアメリカ国内でのクーリエがとまるために，週末の NIPT の採血はさける
5. 検査結果は通常 2 週間余で返ってくることがおおいが，再検査によっておそくなることもあるので，結果説明は 3 週間後するほうがのぞましい



図 2 . 検査依頼書 . 英語記載であることに注意する

-----  
[胎児診断について](#) にもどる

[室月研究室トップ](#) にもどる

カウンタ 295 (2013年8月21日より)}